

おとさほ 音楽療法講座

講義概要

【2026年度 前期】

科目名：音楽療法概論

氏名 水上 恵美

【講義のねらい】

音楽療法の歴史や実践の目的や場所などについて知る、音楽療法の入門的講義

【講義概要】

- ・ 音楽療法の歴史について
- ・ 音楽療法の定義について
- ・ 様々な実践方法について
- ・ 音楽療法士に必要なちからについて

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

適宜紹介

科目名: 個人音楽療法

氏名 水上 恵美

【講義のねらい】

対象者 1 人に対して実践を行う個人音楽療法について、実践に当たり、どのような設定や準備をするのか、セラピストにはどのような力が必要であるかを学ぶ。

【講義概要】

- ・ 対象者を知る
- ・ 個人音楽療法とは
- ・ 実践の方法
- ・ 目標となるところ

(講義参加者の人数などにより適宜変更する)

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

適宜紹介

科目名：音楽療法で用いる楽器について

氏名 八木 美砂子

【講義のねらい】

音楽療法で用いる楽器には、音を発するだけでなく、目的に応じたさまざまな役割がある。対象者が楽器のどこに魅力を感じ、関心を持つかによっても、楽器の役割は違ってくる。また、音や形状・振動の特徴などを探りながら、セッションにどのように生かすことができるのかを考える。

【講義概要】

音楽療法で用いられる楽器の役割を考える。

- ・形状でつながる
- ・感触でつながる
- ・振動でつながる
- ・音でつながる
- ・音楽療法において楽器がどのような存在になるかを考える。

【教科書(テキスト)】

なし

【参考文献】

- 『音楽ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著 あおぞら出版
『音楽療法・音あそび』下川英子著 音楽之友社

科目名: 障害や特性について

氏名 中川 亜希

【講義のねらい】

現在、日本では身体障がい、知的障がい、精神障がい（発達障がいが含まれる）に分類されています。それぞれの特性を理解したうえで、ひとりひとりの子どもを理解する手がかりを得られる機会につながればと考えています。

【講義概要】

- ・現在の障害分類について
- ・それぞれの特性とこれらの重複がある場合について
- ・いくつかのケースについて、どのような困りごとが起こりうるかを考えてみましょう

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名: 障害児者の生活・支援

氏名 佐々木 利枝

【講義のねらい】

障害児者のQOL（生活の質）向上を目指すには、一人ひとりの課題や個別のニーズを把握することが必要である。福祉現場での事例を踏まえながら、音楽を通じた個別支援の視点や、ライフステージごとの生活背景、社会資源の役割、多職種連携について理解を深めていく。

【講義概要】

障害児者の生活と福祉の現場において期待される音楽療法の役割や可能性を事例を通して紹介する。

- ・ 障害児者の誕生から成人期までの生活の流れと各ライフステージに応じた支援について
- ・ 行政制度や地域生活の仕組み、社会資源の役割と連携について
- ・ 福祉サービス利用に至るまでの経過や、申請、手続きについて
- ・ 具体的な支援プログラム 現場で行われている実践例
- ・ 福祉の現場において期待される音楽療法の専門性 事例を通して

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名: 身体・声 I

氏名 水上 恵美

【講義のねらい】

音楽療法の実践において、セラピストの声は非常に重要である。
無理なく自然な発声を身につけるための講義、演習を行う。

【講義概要】

- ・声が出る仕組み
- ・声を出しやすい身体について
- ・身体をゆるめるエクササイズ

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

適宜紹介

科目名: グループ音楽療法

氏名 水上 恵美

【講義のねらい】

対象者が複数のグループ音楽療法においての、実践の設定や楽曲の使い方、プログラムを立てる際に考えること、などについて学ぶ

【講義概要】

- ・対象者を知ること
- ・実践の目標となるところ
- ・プログラムについて
- ・様々な楽曲について

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

適宜紹介

科目名:音楽療法研究-アセスメント・記録-

氏名 山本 知香

【講義のねらい】

音楽療法を的確に実施するためには、クライアントについてよく知ることが欠かせない。本講義では、音楽療法のアセスメントや記録について、基本的な考え方を学ぶ。アセスメントや記録の目的や意義について考え、理解し、音楽療法的な視点からクライアントの変化を捉える力を身につけることを目指す。

【講義概要】

- ・なぜアセスメント・記録が重要か
- ・アセスメントの具体例を知る
- ・記録の具体例を知る
- ・自分なりのアセスメント・記録の方法について考える

【教科書(テキスト)】

講義資料を配布

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名：音楽療法研究 -文献購読-

氏名 山本 知香

【講義のねらい】

音楽療法は、音楽はもちろん、心理学・精神医学・介護福祉・教育・発達支援など、幅広い領域にまたがる学際的な営みであり、その概略を掴むことが難しい。本講義では、音楽療法に関する様々な文献を紹介する。また、目的に応じた文献の探し方や読み方を知ることで、音楽療法の基礎的・実践的知識の習得につなげる。

【講義概要】

- ・音楽療法の定義をめぐる文献の紹介
- ・文献を読むことを通し、様々なアプローチについて知る
- ・文献の探し方・読み方について学ぶ

【教科書(テキスト)】

講義資料を配布

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名：音楽理論-鍵盤を用いた実践的奏法-

氏名 八木 美砂子

【講義のねらい】

対象者との間に音楽を存在させるひとつの手段として、鍵盤楽器がある。楽曲の特徴をとらえ、シンプルな音やコードやリズムに置き換えると、楽譜から離れることができ、対象者への対応に気持ちを向けることができる。対象者の思いを受け止め、目的に応じて柔軟に音楽を変化させるためには何が必要なのかを考える。

【講義概要】

目的に応じて柔軟に音楽を変化させるための音楽理論を学ぶ

- ・ 音楽の特徴をとらえる
- ・ コードから主要三和音をとらえる
- ・ シンプルにして変化しやすくする
- ・ 対象者に合わせて変化させる
- ・ 対象者の表現が生きるよう支える

【教科書(テキスト)】

なし

【参考文献】

『音楽療法のための 即興演奏ハンドブック』若尾裕・岡崎香奈 音楽之友社

『音楽ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著 あおぞら出版

『音楽療法で使う 即興・伴奏・作曲～初心者のための30日間マスター!』菅田文子著
あおぞら出版

『平田紀子のちょっと嬉しい伴奏が弾きたい』平田紀子 音楽之友社

科目名: 打楽器を用いた即興表現

氏名 八木 美砂子

【講義のねらい】

様々な打楽器に触れ、実際に音を出しながら、自分の音や相手の音がどのように響くのかを体験する。気持ちを表出すること・音で対話すること・音を描くこと・リズムで繋がることなど、様々な打楽器での即興表現を通して、音楽療法において打楽器がどのような役割を果たすのかを考える。

【講義概要】

様々な打楽器に触れ、人と人の中で生まれる音を、即興表現を通して体験する。

- ・自分の音を聴く
- ・音を描く
- ・相手の音を聴き、受け取る
- ・音で繋がる
- ・対象者の音が生きるよう支える

【教科書(テキスト)】

なし

【参考文献】

- 『音楽ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著 あおぞら音楽社
- 『即興演奏ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著 あおぞら音楽社
- 『総合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音あそび』下川英子
- 『発達支援のミュージッキング』吉田豊 一粒書房

科目名:

発達心理学的視点から子どもを理解する

氏名 中川 亜希

【講義のねらい】

ひとにはそれぞれ得意なこと、苦手なことがあります。そのレベルを超えた困難さや苦手なことの多さに困っている子どもがいます。その子たちも音楽に興味を持つかもしれない、楽器を奏でたいと思うかもしれません。そういう子どもに出会った際に、理解し、かかわるためのヒントを感じ取っていただける機会になればと思います。

【講義概要】

- ・発達心理学の基礎を知る
- ・子どもを理解するための手がかりを得る
- ・子どもの理解を助ける（支える）ための手立てを考えてみる
- ・参加者それぞれの実践の場でどのように活用できるか考えてみる

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名: 特別支援ピアノレッスン

氏名 宝田 美子

【講義のねらい】

現在、特別支援ピアノレッスンでは、子どもの育ちに合わせた安心感のあるレッスンを大切にしている。本講義では、「音を楽しむこと」や「できた!という成功体験」を重視しながら、無理なくピアノ演奏へつなげていく指導の流れについて学ぶ。その際、筆者の論文を参考にしながら、特別支援におけるピアノレッスンの意義と実践方法への理解を深めていく。

【講義概要】

本講義では、音楽療法の視点を活かし、子どもの多様性に合わせた特別支援ピアノレッスンの実践方法について学ぶ。アセスメントからレッスン設計、具体的な支援技法まで、発達特性に応じたアプローチを段階的に理解する。

- ・アセスメントの取り方
- ・目的を明確にしたレッスン構成
- ・多様なレッスン方法の紹介
 - 1) 視覚情報を活用したプロンプト
 - 2) 微細運動のトレーニング
 - 3) パターン認知力を活かした読譜支援
 - 4) 感覚統合の視点を取り入れた楽器活動
 - 5) レッスン内容の視覚化とフィードバック等

【教科書(テキスト)】

講義資料

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名：音楽療法研究 -関係発達論-

氏名 山本 知香

【講義のねらい】

関係発達論は、対人関係の中での心の育ちについて考えるための発達心理学である。クライアントの変化やあり方を、音楽療法士(自分)と切り離されたものとして捉えるのではなく、関わる側である音楽療法士自身の心のあり方とどうつながっているかに気づき、実践者としての態度を振り返る手がかりを得ることを目指す。

【講義概要】

- ・発達とは、育つとはどのようなことか改めて考える
- ・関係発達論の概略
- ・関係発達論からみた音楽療法的関わりについて、具体例から学ぶ

【教科書(テキスト)】

講義資料を配布

【参考文献】

授業内で適宜紹介

科目名：音楽療法研究 -質的研究-

氏名 山本 知香

【講義のねらい】

音楽療法の研究には、量的研究と質的研究があるが、音楽によって心にアプローチすることは、数や量には置き換えられない、出来事の質的側面を扱うということである。本講義では、実践の記録と深くつながる「エピソード記述」という質的研究方法について特に具体的に紹介し、音楽療法実践の省察方法について学ぶ。

【講義概要】

- ・日本音楽療法学会誌を見渡し、質的・量的研究の概略を掴む
- ・「実践者」にとっての研究の意義について考える
- ・質的研究のひとつ「エピソード記述」について知る

【教科書(テキスト)】

講義資料を配布

【参考文献】

授業内で適宜紹介